

第14回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、2022年8月には第698号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」のGALLERY頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過

審査は公平性を重視するため、主に関西以外を拠点として活躍する建築関係者、学識経験者をお願いしています。第14回も建築ジャーナリストの磯達雄氏を審査委員長としてお迎えしました。

今回の審査は2021年に掲載された作品33点が対象となりました。一次審査は誌面より一般・住宅部門を合わせて計14作品を選出、その後、設計者から追加で提出された詳細資料をもとに二次審査（一般現地審査・住宅詳細資料）を行い、最終的に建築人賞2点、奨励賞2点、佳作4点が選出されました。

入選作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。また今後より多くの方に参加頂き、建築人賞が大阪から魅力ある建築情報を発信する動機として成長発展していくよう祈念しています。

建築情報部門長 荻窪伸彦

実施要項及び経過

●対象作品

会報誌建築人2021年1月号～2021年12月号「GALLERY」掲載作品33点

●審査

第一次審査（33点から14点選出） 第二次審査（8点選出）

●表彰式

2022年度定時総会・式典 席上 日時／2022年5月18日(水) 会場／KKRホテル大阪3階

●入賞作品

建築人賞	タクマビル新館（研修センター）	2021年7月号掲載
	印南の廻楼	2021年11月号掲載
建築人賞奨励賞	ちえの森ちづ図書館	2021年11月号掲載
	山芦屋の家	2021年7月号掲載
建築人賞佳作	ANNEX TSUTENKAKU TOWER	2021年9月号掲載
	日本圧着端子製造 大阪技術センター別館 -Kahdeksankulmio-	2021年10月号掲載
	姫路の家	2021年2月号掲載
	4棟の家	2021年12月号掲載

建築人賞 設計者に賞状および記念トロフィーを授与、建築主・施工者に賞状を授与

建築人賞奨励賞 建築主・設計者・施工者に賞状を授与

建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を授与



建築人賞記念トロフィー
ガラスアーティスト 佐久間靖作

審査委員長 磯 達雄



1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社『日経アーキテクチャ』編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックススタジオ共同主宰(～2020)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰

審査総評

建築人賞の審査を務めるのは、昨年に続いて2度目となる。今回は新型コロナウイルス感染症の蔓延状況から現地審査やヒアリングは行わず、すべて書類のみによる審査であった。今回も住宅部門については昨年と同じく書類審査となったが、一般部門については最終選考の段階で現地審査を行った。これが実現できたのは、建物のオーナーや管理者の協力によるところが大きい。感謝したい。

あらためて審査のプロセスについて説明する。まず『建築人』のギャラリー欄誌面をもとに、1次審査を行う。今回は2021年1月号から12月号までに掲載された33作品(一般部門24件、住宅部門9件)が対象となった。ここから一般部門8件、住宅部門6件を選出し、それぞれについて詳しい資料を設計者から提出してもらった。

送られた資料を見て、2次審査を行う。住宅部門はこの時点で最終審査とし、建築人賞1点、建築人賞奨励賞1点、佳作2点のそれぞれを選出した。一方で一般部門については、前述の通り2次審査で4点に絞った後に現地審査を行なった。現地審査では、設計担当者による解説を聴きながら、建物を実見した。

現地審査の有無で選考結果が変わった

のかどうか。それは答えようもないが、より自信をもって選ぶことができたのは確かである。

新型コロナウイルス感染症が広まってから、あつという間に仕事の打ち合わせも学校の授業もインターネットの回線を通じてリモートで行われるようになった。感染を防止できるだけでなく、移動に要する時間や交通費もいなくなり、便利になったのは間違いないのだが、同時に言葉で説明しにくい不満も次第に膨らんでいった。現状のデジタル技術によるコミュニケーションには、やはり不全感が残ってしまう。

建築を評価するうえでも、同様の問題が生じる。時間をかけてその場へおもむき、周囲も含めた環境を把握し、歩き回って空間を知覚する。それによって得られる建築についての情報量は、やはり紙やデータで提供される資料より、比べようもないほどに大きいのである。あらためてそんなことを意識した今回の審査であった。

なお、一般部門の入賞作品はいずれも木造の建築となった。ただし、もはや木造であることが珍しい時代ではなく、今回の審査でも木造ばかりを選ぼうとした意図はない。あくまで結果である。公共建築や商業建築も含む幅広い用途で、当

たり前のように木が使われるようになっている状況を反映してのことだろう。

同時に言えるのは、単純に木造という構造種別があるのではなく、多種多様な木の用い方があるということである。入賞した4作品を見ても、それぞれの設計条件を反映して、どの部分にどのように採り入れるのかのところで深い検討が行われ、独自の木造架構を実現している。木造に対する批評的な視点こそが、評価の際のポイントとなっているのである。

建築人賞 タクマビル新館（研修センター）



【選評】

鉄骨と木のハイブリッド構造を採用、耐火集成材柱や集成材マリオンを挟んだガラスのダブルスキンで四周を囲うことにより、これまでにない「木の高層建築」を実現している。その透明感はミース・ファン・デル・ローエが思い描いたガラスのスカイスクレーパーをも連想させる。CLT 耐震パネルを組み合わせたアイランド型コアを偏心させて置いたプランも効果的で、これにより向かい合わせにある既存本社から、ホワイエを行き交う社員の生き生きとした姿も眺められる。木の視覚的効果が、最大限に発揮された建築である。

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／兵庫県尼崎市
竣工年月／2020年10月
用途／事務所
構造・規模／S+W造
地上6階

敷地面積／8,659.44㎡
建築面積／707.89㎡
延床面積／3,334.35㎡
写真／古川泰造
建築人 2021年7月号掲載

建築人賞 印南の廻楼



【選評】

西側が海へと開かれた崖の上に建つ。平面は正方形の中庭を囲む回廊形式をとる。東西両面に大開口をもつ主楼は、そのガラス扉を開放すると、エントランスからの視線が中庭とリビング・ダイニングルームを介して、その向こうの海まで貫通する。軸線のまっすぐ先は、冬至の日に太陽が沈んでいく位置を指し示している。夕陽の情景はさぞや感動的であろう。ひとつの小住宅であると同時に、天体の動きを観測する装置でもあるような、スケールの大きさを内包した作品である。

設計／岩田章吾建築設計事務所
施工／和田建設

建築位置／和歌山県日高郡
竣工年月／2021年7月
用途／個人住宅（別荘）
構造・規模／混構造
(RC造+木造)

敷地面積／541.64㎡
建築面積／307.39㎡
延床面積／285.01㎡
写真／緋田昌重
建築人 2021年11月号掲載

建築人賞奨励賞 ちえの森ちづ図書館

【選評】スギの名産地として知られる町に初めて実現した独立の図書館。明快な直線状の開架空間に、スギ材とスチールの合成トラスによる屋根が架かる。外部業者によるカフェや見栄え優先の巨大な書架といった、昨今の図書館建築トレンドに流されることなく、住民のアイデアをワークショップで取り込んで、地域が求める施設をしっかりとつくりあげた点を評価する。棚差と面陳に両対応する書棚など、図書館の本質的機能に即した家具の工夫もよい。

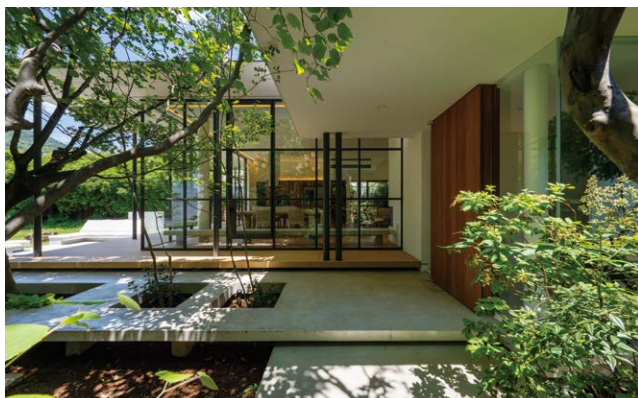
設計・監理／徳岡設計
 建築位置／鳥取県智頭町
 敷地面積／3,729.37㎡
 竣工年月／2020年11月
 建築面積／1,392.21㎡
 用途／図書館
 延床面積／1,176.06㎡
 構造・規模／S+W造
 写真／徳岡設計
 平屋建



建築人賞奨励賞 山芦屋の家

【選評】築地塀で囲まれた敷地に、昭和2年に建てられた山小屋風の蔵、コンクリート打ち放しのゲストハウス、新築の母家に分かれて建っている。3つの棟はそれぞれにまったく異なるスタイルを採りながらも、絶妙なアンサンブルで心地よい庭の景観をつくり上げている。これを最大限に採り入れるよう、母家では大きな開口を取り、アウトドアリビングも設けた。他では得難い邸宅の環境を、既存の建物資源を生かしながら、見事に達成している。

設計／マニエラ
 建築設計事務所
 建築位置／兵庫県芦屋市
 敷地面積／1,075.99㎡
 竣工年月／2021年2月
 建築面積／1,074.01㎡
 用途／専用住宅
 延床面積／444.80㎡
 構造・規模／母屋S造平屋
 写真／下村康典
 車庫棟・蔵RC造2階建



建築人賞佳作 ANNEX TSUTENKAKU TOWER

【選評】大阪の観光拠点として長く親しまれる通天閣の別館として、その足元に設けられた木造の商業施設である。1・2階の店舗面積を200㎡未満に抑えたり、3階を事務用途にしたりするなどの工夫で、木造の架構をそのままあわすことが可能になった。屈折した細長い敷地に並ぶ木の門型フレームは、物販の機能をうまく満たしながら、建築のアイデンティティをしっかりと主張している。都市部における木造建築の可能性を広げた建物だ。



設計／竹中工務店
 施工／竹中工務店
 建築位置／大阪府大阪市
 竣工年月／2020年8月
 用途／店舗・事務所
 構造・規模／木造3階建
 敷地面積／139.97㎡
 建築面積／109.22㎡
 延床面積／298.49㎡
 写真／母倉知樹

建築人賞佳作 日本圧着端子製造大阪技術センター別館-Kahdeksankulmio-

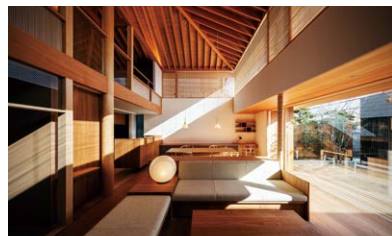
【選評】敷地にあった旧建物を稼働させながら、その奥にわずか2m幅の路地を介して建設したため、大型の重機を使用しない小部材による木造が工法として選ばれた。八角形平面の小さな建物を連結した特異な構成が、施工のプロセスから導き出されたわかると納得がいく。制約が強い平面だが、内部には電子部品の試験装置が思った以上にうまく収まっている。旧建物の跡は緑地として整えられ、八角形のパターンが将来の増築可能性を暗示する。



設計／Atelier KISHISHITA
 施工／フリースタイル
 建築位置／大阪市西淀川区
 竣工年月／2017年5月（建築）
 2020年2月（外構）
 用途／研究所
 構造・規模／木造1階建
 敷地面積／1,370.34㎡
 建築面積／266.34㎡
 延床面積／266.34㎡
 構造設計／満田衛資構造計画研究所
 設備設計／パルス設計
 写真／絹巻豊

建築人賞佳作 姫路の家

【選評】高さが抑えられた建物が、敷地境界いっぱいには広がるように建ち、その中にモザイク状に外部空間が混じり込む。それぞれの部屋からそれぞれの庭が楽しめるようになっていく。また各部屋には広さと機能に応じた天井が架かっており、住宅の中に実に多様なシーンが展開する。朝昼晩、そして春夏秋冬、いついかなる時もこの家にいるのが楽しい。そんな住まいである。カーブした斜路によるアプローチも、気分を高めてくれそうだ。



設計／大西憲司設計工房
 施工／アトリエ・エイト
 建築位置／兵庫県姫路市
 竣工年月／2020年10月
 用途／専用住宅
 構造・規模／木造（在来工法）地上2階建
 敷地面積／484.02㎡
 建築面積／245.35㎡
 延床面積／264.89㎡
 写真／福澤昭嘉

建築人賞佳作 4棟の家

【選評】シンプルな家形をとった4棟が連なり、一軒の住宅ながら、集落のような景観を形成している。外観の家形は軒の出やガラス面の表出を抑えることで抽象度が高まった。室内もミニマルなデザインが追求されているが、その一方で、クライアントの旧宅から柱梁・建具などを持ち込み、一部に再利用することで、固有の物語を重ねている。セメントの風合いを感じさせる下見板張りの外壁も、レンガ敷きの中庭外構とうまくマッチしてよい。



設計／コンパス建築工房
 施工／ケイ・アイ・エス

建築位置／大阪府堺市
 竣工年月／2021年5月
 用途／専用住宅
 構造・規模／木造2階建
 敷地面積／482.86㎡
 建築面積／232.69㎡
 延床面積／259.26㎡
 写真／岡田大次郎